



本資料は、米国アッヴィ社が2023年4月27日(米国時間)に発表したプレスリリースを一部、日本語に翻訳し、2023年5月8日(日本時間)に、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、www.abbvie.comをご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

PRESS RELEASE

2023年5月8日

アッヴィ、2023年第1四半期の業績を発表

- 第1四半期の希薄化後1株当たり利益(EPS)はGAAPベースで、94.8%減の0.13ドルでした。調整後希薄化後EPSは22.2%減の2.46ドルでした。これらには、取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株当たり0.08ドルのマイナスの影響が含まれます。
- 第1四半期の売上高は、報告ベースで9.7%減、営業ベースで8.3%減の122億2,500万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで9.0%減、営業ベースで7.8%減の55億8,700万ドルでした。ヒュミラ®の売上高は、35億4,100万ドルでした。スキリージ®の売上高は、13億6,000万ドルでした。リンヴォック®の売上高は、6億8,600万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで14.0%減、営業ベースで12.9%減の14億1,600万ドルでした。イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は、8億7,800万ドルでした。ベネクレクスタ®の売上高は、5億3,800万ドルでした。
- 精神・神経疾患領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで13.9%増、営業ベースで15.0%増の16億9,500万ドルでした。ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、7億1,900万ドルでした。Vraylar(日本では未承認・未発売)の売上高は、5億6,100万ドルでした。
- エステティクス領域の第1四半期の売上高は、報告ベースで5.4%減、営業ベースで2.0%減の13億ドルでした。ボトックス・コスメティックの売上高は、6億5,900万ドルでした。Juvederm(ジュビダームビスタ®として、アラガン・ジャパン株式会社による承認・販売)の売上高は、3億5,500万ドルでした。
- 2023年度における調整後希薄化後EPSのガイダンスを、10.62ドル~11.02ドルから10.72ドル~11.12ドルへ引き上げました。これには、2023年第1四半期に発生した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株あたり0.08ドルのマイナスの影響が含まれます。

米国イリノイ州ノースシカゴ、2023年4月27日—アッヴィ(NYSE:ABBV)は、2023年第1四半期(2023年3月31日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼CEOのリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「当社の多様なポートフォリオ全体で好業績を上げ、第1四半期の売上高とEPSは私たちの期待を上回り、幸先良くスタートを切りました。バランスの取れた業績結果により、自信を持って通年のガイダンスを引き上げることができ、また今後、主力品が長期的な成長を促進する多くの機会があると考えます」



2023年第1四半期の業績

- 売上高は、報告ベースで9.7%減、営業ベースで8.3%減の122億2,500万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の売上高は、報告ベースで9.0%減、営業ベースで7.8%減の55億8,700万ドルでした。
 - ヒュミラ®の売上高は、報告ベースで25.2%減、営業ベースで24.3%減の35億4,100万ドルでした。米国での売上高は、26.1%減の29億4,800万ドルで、米国外では報告ベースで20.3%減、営業ベースで14.8%減の5億9,300万ドルでした。
 - スキリージ®の売上高は、報告ベースで44.7%増、営業ベースで46.3%増の13億6,000万ドルでした。
 - リンヴォック®の売上高は、報告ベースで47.5%増、営業ベースで51.2%増の6億8,600万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の売上高は、報告ベースで14.0%減、営業ベースで12.9%減の14億1,600万ドルでした。
 - イムブルピカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は25.2%減の8億7,800万ドルで、その内訳は、米国内が6億3,800万ドル、米国外が2億4,000万ドルでした。
 - ベネクレクスタ®の売上高は、報告ベースで13.7%増、営業ベースで17.5%増の5億3,800万ドルでした。
- 精神・神経疾患領域の売上高は、報告ベースで13.9%増、営業ベースで15.0%増の16億9,500万ドルでした。
 - ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、報告ベースで17.1%増、営業ベースで18.7%増の7億1,900万ドルでした。
 - Vraylar(日本で未承認・未発売)の売上高は、31.3%増の5億6,100万ドルでした。
 - Ubrelvy(日本で未承認・未発売)の売上高は、10.0%増の1億5,200万ドルでした。
- エステティックス領域の売上高は、報告ベースで5.4%減、営業ベースで2.0%減の13億ドルでした。
 - ボトックス・コスメティックの売上高は、報告ベースで2.9%増、営業ベースで5.8%増の6億5,900万ドルでした。
 - Juvederm(ジュビダームビスタ®として、アラガン・ジャパン株式会社による承認・販売)の売上高は、報告ベースで13.4%減、営業ベースで7.4%減の3億5,500万ドルでした。
- GAAPベースで、売上総利益率は67.4%でした。調整後売上総利益率は84.2%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、24.9%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は24.4%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める研究開発費の割合は、18.8%でした。調整後の研究開発費の売上高に占める割合は、パイプラインへの投資を反映し、13.6%でした。
- 取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払の売上高に占める割合は1.2%でした。
- GAAPベースで、営業利益率は22.6%でした。調整後営業利益率は45.0%でした。
- 純支払利息は4億5,400万ドルでした。



- GAAP ベースで、税率は 49.3%でした。調整後の税率は、13.7%でした。
- 希薄化後 EPS は、GAAP ベースで 0.13ドルでした。特定項目を除く調整後希薄化後 EPS は、2.46ドルでした。これらには、取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した 1 株当たり 0.08ドルのマイナスの影響が含まれます。

注意：「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)。

https://news.abbvie.com/article_display.cfm?article_id=12579

アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製と提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。患者さん一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、精神・神経疾患、アイケア、ウイルス、ウイメンズヘルス、消化器疾患、さらにアラガンエステティックスポーツフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。Twitter アカウント@abbvie、[Facebook](#)、[LinkedIn](#) や [Instagram](#) でも情報を公開しています。

Forward-Looking Statements

Some statements in this news release are, or may be considered, forward-looking statements for purposes of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. The words "believe," "expect," "anticipate," "project" and similar expressions and uses of future or conditional verbs, generally identify forward-looking statements. AbbVie cautions that these forward-looking statements are subject to risks and uncertainties that may cause actual results to differ materially from those expressed or implied in the forward-looking statements. Such risks and uncertainties include, but are not limited to challenges to intellectual property, competition from other products, difficulties inherent in the research and development process, adverse litigation or government action, and changes to laws and regulations applicable to our industry. Additional information about the economic, competitive, governmental, technological and other factors that may affect AbbVie's operations is set forth in Item 1A, "Risk Factors," of AbbVie's 2022 Annual Report on Form 10-K, which has been filed with the Securities and Exchange Commission, as updated by its Quarterly Reports on Form 10-Q and in other documents that AbbVie subsequently files with the Securities and Exchange Commission that update, supplement or supersede such information. AbbVie undertakes no obligation, and specifically declines, to release publicly any revisions to forward-looking statements as a result of subsequent events or developments, except as required by law.